

特集1:グローバル生産拠点とものづくり

地球規模の省エネルギーの一翼を担う環境貢献製品の開発・生産・品質向上に努めています。

世界的な環境保護意識の高揚に伴い、各国でもCO₂排出規制強化が進み、自動車の燃費を向上させるための内燃エンジンの高効率化や電動化へのシフトなど環境性能向上へのニーズは日を追うごとに高まっています。また、ADAS(先進運転支援システム)や自動運転など安全機能の強化に対するニーズとともに、カーシェアリングといったモビリティを取り巻く変化は、人や社会と自動車の関わりに大きなイノベーションを生み、これに対応するためのパワーエレクトロニクスとしての電子化のさらなる進展は、安心・安全・快適性の向上をもたらす、多様化した新たなニーズの創出に繋がります。

身近な電化製品においても、省エネルギーへの指向は一層強まっており、エアコンや冷蔵庫のコンプレッサやファンモータをインバータ制御化するニーズはますます高まっています。

サンケングループでは「エコ・省エネ」「グリーンエネルギー」をキーワードに、競争優位性のある技術の向上に加え、信頼性評価をベースとした高品質・堅牢なパワー半導体の生産を通じ、お客様の信頼を得てきました。こうした実績が数多くの製品分野において業界屈指のグローバルシェアを確保できた所以です。今後も、活躍の舞台を大きく広げる新市場・新用途の開拓に向け、環境貢献との高い意識を持ち、新技術・新製品の開発を加速させていきます。

パワー半導体とは・・・

パワー半導体とは、モータや照明などの制御や電力の変換を行う半導体です。扱う電圧や電流が大きいたことが特徴です。

半導体といえばマイコン(CPU)やメモリなどのLSIがよく知られていますが、これらは「演算」や「記憶」などの働きをする半導体です。これに対しパワー半導体は、交流を直流にする、電圧を5Vや3Vに降圧するなどし、モータを駆動したり、バッテリー充電したり、あるいはマイコンやLSIを動作させるなど、電源(電力)の制御や供給を行う半導体をいいます。

パワー半導体
電力の
制御や供給
を行う



半導体信頼性評価センターの設立

サンケン電気本社構内のリソース再構築計画と信頼性評価効率の向上を狙い、2019年4月、石川県に「半導体信頼性評価センター」を竣工させました。各拠点に分散していた評価設備を集約し、パワー半導体の開発ステップにおける評価工数の効率化、評価ボードの内製化などの合理化・効率化を図りました。



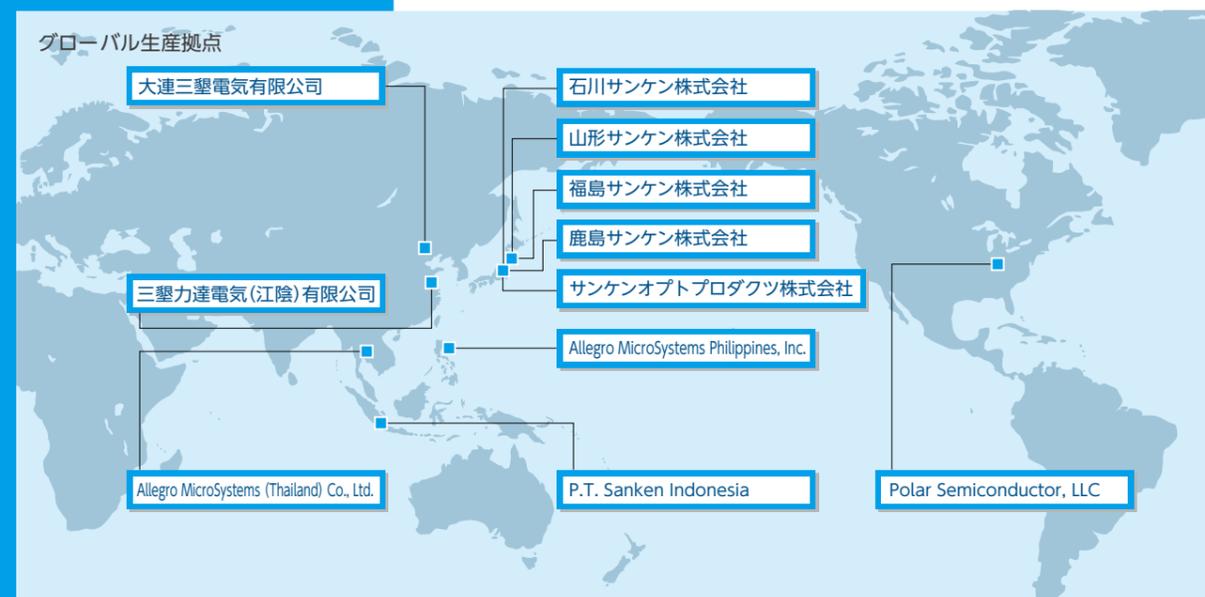
半導体信頼性評価センター外観(石川)

ものづくり開発センター構想

サンケン電気本社構内のリソース再構築として、生産技術・ものづくり力の強化と、SPPに掲げる生産設備の標準化と生産ライン構築時間の半減を実現させるためのラボとして、「ものづくり開発センター」が着工しました。パイロットラインの設置によるものづくり力の研究開発と実践の状況が社員にわかりやすいレイアウトを想定し、技術の変遷をステークホルダーにご理解いただくコミュニティエリアも併設。竣工は2021年3月を予定しています。



ものづくり開発センター外観(本社)



パワーエレクトロニクスのイノベーションを加速

私の使命は、まず「SPP」の伝道師として全部門全工場に開発コンセプトを浸透させることにあります。また、技術としてマーケットを重視した開発戦略立案と、厳正な分析による利益創出立案を行うプロフィットセンターの機能も担います。開発の入口と出口管理を営業部門と連携しながら効率良く進め、不採算品の新製品による置き換えや高付加価値製品の企画を積極的に実現させ、利益率向上に貢献する所存です。サンケンパワー半導体の一層の飛躍を、10年後のあるべき姿を描きながらリードしていきます。



デバイス事業本部
技術本部マーケティング 宇津野 瑞木
統括部長

特集2: エンジニアのグローバル登用と育成

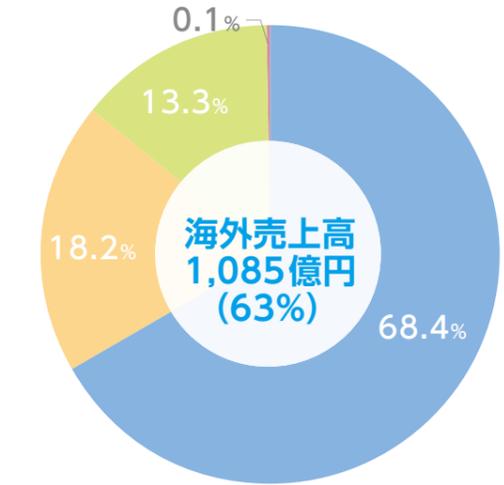
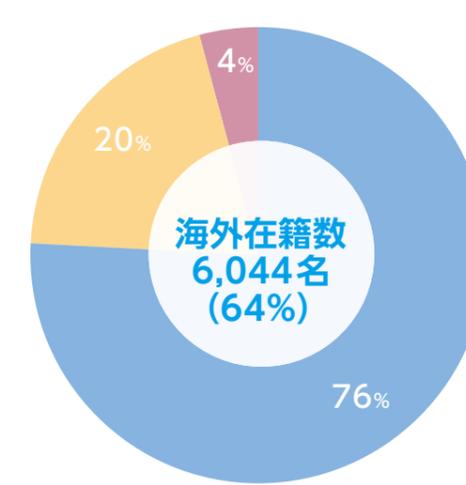
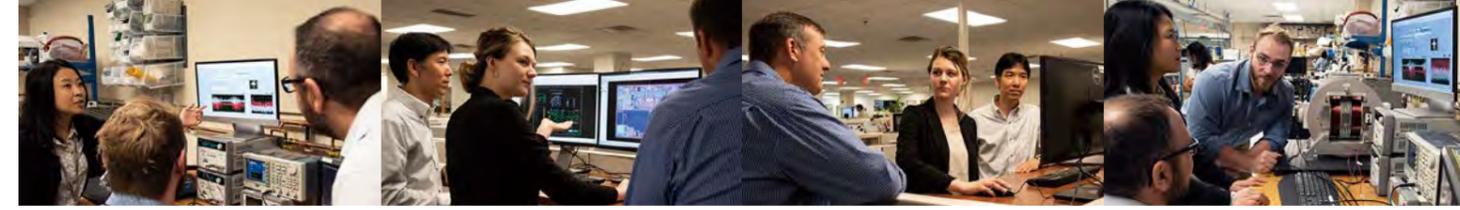
絶えず革新による成長を追求し、グローバルに存在感のある企業グループを目指し、海外展開を積極的に行っています。



グローバルに展開する人材確保戦略

独自性と創造力にあふれた技術開発を進めていくために、常に優秀な技術者の確保に弛みなく力を注ぎ続けることが、イノベーションを生み出す企業の使命と言っても過言ではありません。私たち日本のサンケン電気および米国のアレグロでは、社会環境の変化から、それぞれの自国での技術者の採用が年々難しくなっています。こうした課題に対して、ダイバーシティ・ジェンダーなど人材の多様性への対応と、グローバルでの知識・知見を深めた人材発掘・登用に踏み切り、古くはアレグロが2000年頃より、

スコットランドのエジンバラへ帰郷を希望した同国人の技術者をサテライトオフィスで技術者として就業させ、グローバルな開発体制を初めて構築しました。その後、アルゼンチンやウルグアイでも展開。2018年には、チェコのプラハに20名のデザインセンターを立ち上げました。サンケン電気においても、近年の日本における少子高齢化の進展から、国内採用と併せて海外での現地採用を拡大し、現在までに韓国および台湾で合計70名規模の体制を確立、開発スピードのアップに貢献しています。



連結従業員数 9,481名 (2018年度)

連結売上高 1,737億円 (2018年度実績)

■ アジア ■ 北米 ■ その他

■ アジア ■ 北米 ■ 欧州 ■ その他

グローバル人材マネジメント戦略

1946年の創業当初、東邦産業研究所から引き継いだわずかばかりの技術者と作業員で始まった私たちの仲間は、現在、約9,500名(連結)まで増え、うち64%が海外拠点の現地従業員となります。1990年のアレグロ買収後、販売・生産・開発を担う多くの海外拠点の立ち上げにより、グローバルな人材を確実に確保して現在のサンケングループを構成しています。また、こうした海外拠点も含めた経営・事業オペレーションに就くための資質として、地域性も考慮したマネジメント力の強化を図っています。従来の業務ニ

ズに特化した育成方針から、より企業戦略に呼応した人材の育成に積極的に取り組んでいます。世界に通用するビジネス知識を備えている(知的能力)、異文化への寛容さと変化への順応力がある(心理的能力)、政治的あるいは文化的に見解の異なるステークホルダーに影響を与える能力を持つ(社会的能力)、国際公用語(英語)で意思疎通を図ることができる、まさにグローバル戦略を担う人材マネジメントの推進こそが企業価値をより高めていくものと考えています。



地域貢献の拡大 「ペットボトル®」が地域社会に光を灯す

サンケングループは、石川県輪島市での千枚田イルミネーションイベントをはじめとした、全国各地で自社製品を活用したLED「ペットボトル®」で、地域社会の活性化のため、光を灯しています。



石川県西能登里浜「ときめき桜貝廊」

石川県志賀町 商工観光課 参事 村井 直様

志賀町には、石川県の能登地域振興の一環施策により町が誘致した第一号企業として、石川サンケン株式会社の本社があります。このご縁に加え、現存する日本最古の木造灯台である旧福浦灯台を有する町の「灯りのイベント」として、2016年から町のランドマークの一つである「世界一長いベンチ」において、「ペットボトル®」を活用した「西能登里浜イルミネーション「ときめき桜貝廊」」をスタートし、今年で4回目を迎えます。

8月から11月までの期間中、来場者は2万人を超え、町を代表するイベントとして広く周知されるようになりました。また、周辺地域の経済団体や住民によるイベントボランティアも組織され、石川サンケンとサンケンオプトプロダクツの社員の参加もいただき、活発な活動による地域コミュニティの醸成に寄与しています。



石川県白山市「灯りでつなく1300年」

石川県白山市 観光文化スポーツ部観光課 松田 肇様

「灯りでつなく白山」～灯りに祈りを込めて～
2019年7月6日には186名のボランティアが参加し、白山一里野温泉スキー場に2万個のイルミネーションが完成しました。また、7月13日のオープニングイベントには多くの方が来場し、太鼓や音楽演奏を聴きながら、七色に彩られた幻想的なイルミネーションを楽しみました。

今回で3回目を迎える白山一里野イルミネーション、今年も市内外はもとより県外からも多くの観光客にお越しいただき、夏の里野の夜を楽しんでいただきたいと思います。



福井県越前町「水仙岬のかがやき」

福井県越前町 商工観光課

上坂 佳一様

浜のおじちゃん、おばちゃんが、町花である越前水仙の持つ魅力と越前岬の自然景観を十分に生かしながら、水仙のオフシーズンも楽しめるようにと「ペットボトル®」を活用し、地域の魅力の一つとして、ボランティアとともに地域活性化を図っています。オフシーズンも観光客が増え、やりがいも増えています。



大分県豊後高田市「千年のきらめき」

大分県豊後高田市

田染荘千年のきらめき実行委員会
加口 昌平様

「ホタル銀河」と呼ばれるほど、ホタルが無数に飛び交う大分県豊後高田市田染小崎地域。

“冬のホタル”として、貴社の「ペットボトル®」を活用したイルミネーションイベントを開催しています。大変ご好評をいただいております。地域が活性化されていると感じております。



石川県輪島市「あぜのきらめき」

石川県輪島市役所 産業部観光課

主幹 古戸 直美様

イルミネーションイベント「輪島・白米千枚田あぜのきらめき」は2011年から始まり、今年で9回目の開催となります。棚田では、電気の配線をするのは非常に困難で、石川サンケン様と輪島市が共同で開発した独立型LEDライト「ペットボトル®」により、棚田での幻想的なイルミネーションを実現することができました。このイベントを始める前は、冬の夜の千枚田を訪れる人はいませんでしたが、今では棚田を散策する人であふれ、冬の能登を代表するイベントに成長しました。

2018年度は設置エリアを拡大し、4色に輝く新型「ペットボトル®」を投入しました。新たな魅力を取り入れながら、リピーターを増やし、輪島市への誘客に繋がりたいと思います。



富山県富山市「虹のかけはし（牛岳温泉スキー場）」

富山県富山市 牛岳ライトアップ実行委員会
会長 山田 憲彰様

7色のペットボトル型LEDライトで、牛岳温泉スキー場のグレンデを虹の模様で彩り、その幻想的なイルミネーションは、牛岳温泉スキー場の夏の風物詩となっています。今年で7回目を迎えますが、毎年少しずつ来場者が増え、人気を博しています。



千葉県鴨川市「棚田の夜祭り」

千葉県鴨川市役所 商工観光課

川名 亮平様

日本の棚田百選に選定されている大山千枚田を舞台に開催される棚田の夜祭りは、「ペットボトル®」を取り入れて5年以上が経ちます。里山の夜に輝く松明とLEDの幻想的な風景は、鴨川の秋の定番イベントとしてお客様から好評をいただいております。



島根県奥出雲町「たたら灯」

一般社団法人 奥出雲地域活性化プロジェクト
代表理事 田辺 俊成様

毎年、田植時期と、稲刈り後の秋と2回開催しています。観光客の増加はもちろんです。我々の取り組みに対し、県外の企業様からの助成と行政のクラウドファンディングという形で御支援いただいております。今後も「ペットボトル®」を活用しての地域づくりを行っていき、地域を明るく照らしてまいります。

- ・経済効果としては、あぜのきらめき8年間で推定31億円(輪島市役所推定)
- ・全国60カ所へ拡大。累計効果としては40億円を超える効果が出ていると推測